第８学年　総合的な学習の時間　学習指導案

指導者　８学年教員

１　単元名　CORPORATE ACCESS

２　単元について

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。文部科学省は「高い成果を上げている学校も見られる反面、総合的な学習の時間と各教科等との関連が不十分なこと」「実社会や実生活にかかる課題をより積極的に取り扱う必要性があること」などの課題をあげている。本校においても、これらの課題は共通しており、令和元年度から、身近にある課題を、協働的な活動を通して考え、新たなアイデアを創造して解決するPBLを取り入れている。

第８学年で実施する本単元「CORPORATE ACCESS」は、日本を代表する企業から出されたミッションの解決を教科横断の視点を取り入れた協働的な活動を通して行う。この単元のねらいは、生徒たちに「未来」を自らの力で前向きに創造していく姿勢を養うことである。本単元では、まず実在する企業のインターンシップを教室で体験し、働くことの意義や企業に属することの意味を理解する。次に、企業から出されたミッションの解決に取り組む。ここでは、多様なアイデアを出しやすくするために、ジャムボードを用いたブレインストーミング方式で行うことや企業の方と実際に交流することで、より創造的な解決策を導けるようにする。最後に、ミッションを出した企業に向けてプレゼンによる発表を行う。ここでは、単にプレゼンにまとめただけにならないよう、相手に伝わる工夫を考えさせるため、福岡女子商業高校の生徒から、プレゼンに対する評価をもらい、さらにブラッシュアップさせる。この一連の活動を通して、生徒は、自分の身近にある問題に課題意識を持ち、その解決のための方法を自ら考えようとする態度が育成されると考える。このことは、本校が学校教育目標として掲げる「自律的学習者」の育成を実現するうえで、この単元を設定することは意義深い。

３　単元の目標

・企業からのミッション解決のために、ICT機器や意見交流など様々な手段で必要な情報を取得し、情報の分析を行い、新たな価値として課題解決策に取り入れることができる。
（知識及び技能）

・企業からのミッションの解決策を、スライド等にまとめ、ミッションを出した企業を納得させる工夫のあるプレゼンを行うことができる。（思考力・判断力・表現力等）

・これからの自分が、どのように社会の課題と向き合っていくのかを明らかにすることができる。（学びに向かう力・人間性等）

４　単元指導計画（全３０時間）

過程	時数	◯主な学習活動（内容）	◇主な評価基準
導入	8	1 活動の準備を行う。	◇仕事に対する、自分なりのイメージを持つことができる。【主体的】 ◇新人研修に取り組み、自分が属する企業の情報を把握しようとしている。【主体的】
展開	5	2 インターンシップを行う。	◇企業に関するアンケート調査をグーグルフォームで作成し、集まった情報を適切に分析することができる。【知・技能】 ◇福岡女子商業高校の生徒との交流を通じて、今後の見通しを立てたり、レポートを改善したりすることができる。【思・判・表】
	6	3 ミッションの解決に取り組む。	◇ジャムボードを用いて、ミッションの解決に向けた多様なアイデアを考えることができる。【主体的】 ◇課題解決のために必要な情報を ICT 機器や意見交流を通して取得することができる。【知・技】 ◇これまでに得た情報を分析し、新たな価値として課題解決策に取り入れることができる。【思・判・表】
終末	11	4 企業を納得させるプレゼンを行う。 **本時 10/11【本時】**	◇プレゼンの要点を理解し、グーグルスライドやグーグルドキュメントを用いて、工夫のあるプレゼンを作成することができる。【知・技】 ◇これから自分が向き合おうとする課題を見つけ、その解決に向けた行動を具体的に示すことができる。【思・判・表】

５　本単元における小中一貫の視点

（１）キャリア教育の視点（人間関係形成・社会形成能力）

本単元は小学校第５学年、中学校第７学年で学習した PBL を地域の課題から、日本の大企業からの課題へと発展させたものである。アンケート調査の実施や複数回にわたるレポート・スライド作成を通して、答えのない問いに対して、探究を重ねることでよりよい未来を創造するためのアイデアをつくっていく。この学習は第９学年の飯塚提言における、より身近な地域を題材に課題解決をしていく学習に発展していく。

（２）９年間を通した系統性について

本単元は小学校第５学年（ちょいボラ隊参上）、中学校第１学年（企業コラボ）を土台に中学校第３学年で行う飯塚提言にむけて実施する。

６　本時

（１）　主眼

最終発表会を通して、これから自分がどのような社会の課題と向き合い、解決に向けて行動していくか具体的に示すことができるようにする。

（２）　展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点　◇評価基準(方法)	配時
課題設定	1　これまでの活動をふりかえる。	○本時はこれまでの活動の集大成であることを意識させるために、教師の話をもとに振り返りをさせる。	5 分
	めあて　これまでの活動の成果を共有し、これから自分が解決したい社会の課題を見つけ、その関わり方を明らかにしよう。		
学び合い	2　発表をおこなう。 ・発表者は自分のタブレットをもって、電子黒板の前で発表を行う。 ※１チーム５分程度。 予選で選ばれた４チームが発表する。 3 評価を入力する。 ・発表を聞く生徒は、グーグルフォームをもちいて評価を行う。 4 フィードバックをうける。	○発表前に評価項目について説明することで、適切に評価を行わせる。 ○発表中は、聞くことを意識させるためにタブレットは椅子の下に置かせる。 ※評価は各班の発表が終わり次第、その都度行う。 ○これまでの活動の意義づけや発表内容に対する価値づけのため、企業からのフィードバックを受ける。	35 分
	【評価項目】 ◇①内容に関する項目（※以下の６項目を５段階評価で行う。） ・固定概念にとらわれず、斬新なアイデアを導くことができている。（独創性） ・ミッション解決に向けた提案内容が根拠のある説明になっている。（論理性・調査力） ・ミッション解決に向けて、アンケート結果や企業の情報を適切に分析することができている。（調査力） ②発表に関する項目 ・はきはきと大きな声で発表ができている。（表現力） ・聴いている人を引き付けるような発表方法の工夫がされている。（表現力） ・スライドの文字の大きさや図・写真が見やすく配置され、内容が十分に伝わりやすいものになっている。（表現力・論理性）		

	5 表彰を行う。	○生徒賞と企業賞の２つを用意し表彰を行う。	
振り返り	6　講評をうける。 7 全体のまとめを行う。	○九州工業大学安永教授から全体の講評をうける。 ◇これから自分が向き合おうとする課題を見つけ、その解決にむけた行動を具体的に示すことができる。 【思・判・表】	10 分